IFIP 近況報告 ―情報処理国際連合―

学会活動報告

村山優子 IFIP 日本代表（津田塾大学）

IFIP は創立 50 年を過ぎ，情報技術（IT）の発展へ貢献をしてきた歴史があるが，現在の IT 分野の状況の中で，今後どのような存在となるかが課題とされている．元々国連のユネスコの下部組織として創設され，各国ごと 1 学会と決められたメンバ学会の代表の集まりである IFIP 総会（GA：General Assembly）は，毎年 1 回開催され，IT 全体が置かれている多くの問題について議論が行われる．

従来，IFIP-GA は WCC（World Computer Congress）や WITFOR（World Information Technology Forum：主として開発途上国の IT による社会開発を支援するアイディアについて討議する会合）のあるときに併催されていた．しかし，2012 年にアムステルダムで開催された WCC との併催後，2013 年と 2014 年は単独で GA だけが開催された．2015 年は，韓国の大田広域市（Daejeon）で 10 月の WCC 2015 後に開催された．また，WITFOR については開発途上国で開催されてきており，2013 年にパラグアイでの開催に向け進められていたが政権交代で開催できなくなった．2016 年度は，久々に WITFOR 2016 がコスタリカの首都サンホセで 9 月 12 ～ 14 日に開催され，続いて GA が 16 日～ 17 日に開催された．

IFIP 全般の状況

会議には IFIP Vice President，日本代表として村山が出席した．

現在，総会の構成員は次の通りである．IFIP のメンバ学会の数は 43，準会員は 4 組織，技術委員会（Technical Committee）は 13 で，それぞれの代表のほか，Ex Officio Member は 7 名，名誉会員が 9 名である．一時のようなメンバ学会の減少は止まっているが，情報処理分野における学会活動のアメリカ 1 極集中により経営困難になっている学会もあり，なお会費を支払えない学会は存在している．ナイジェリアとシリアは，2016 年度の会費が支払われていないため，このままでは会員資格を失う．財務上，2014 年の赤字は 2 万 7 千ユーロであったが，2015 年は 3 万 6 千ユーロとなった．例年，予算よりも少ない赤字となっている．これは予定されていたプロジェクト活動等で計上されていた支出が実際には使われなかったことや，事務局や技術委員会（Technical Committees）における節約なども起因している．2016 年度は，予算上では 14 万ユーロの赤字が計上されている．

IFIP の財務の課題と構造改革

本件に関しては，情報処理 2014 年 3 月号 [1] で IFIP の前日本代表の齊藤忠夫先生が詳しく記述されている通り，GA で数年にわたり検討されてきた．IFIP では，各国を代表するメンバ学会が参加費を支払い，それが主な収入源である．支払い負担については，国際連合モデル，すなわち，国際連合への費用分担に従う．しかし，毎年赤字が計上され，ここ数年，運営改革が課題とされてきた．Leon Strous 前会長は，この改革を推進してきた．

従来，会員資格は，正会員(Full Member)，準会員

(Associate Member)，名誉会員（Honorary Member）の3種類があり，その投票権等も指定されていた．正会員は，各国での主たるIT関係の学会がなる．日本では本会である．昨年度承認された改革では，従来の国代表会員のほかに複数の会員が可能となる．ただし，国代表ではない会員は投票権等に多少の制限がある．

今回はさらに，各国のメンバ学会が支払う年会費について踏み込み，以下の3案の試算情報に基づき投票が行われた：

a)従来の国連型モデル

- 国際連合への費用分担に従い，6段階に分け，各国の会費を決める

b)新国連型モデル

- 国際連合への費用分担に従うが，従来の国連型の6段階は撤廃し，各国ごとの参加費を決め，さらに上限や下限を設ける

c)定額モデル

- 開発途上国等とそれ以外の国の2グループに分け，それぞれのグループごとに定額とする

上記cの定額案は，先進国の費用は大幅に軽減されるものの，多くの開発途上国等で今までより高い会費となる．これは，国際連合のユネスコの下部機関としてのIFIPでは望ましくない．したがって，a案とb案が争点となった．結果は，改革には賛成が多いものの，実際の選択は各国の利害が絡み，決定には至らず，2017年度以降に議論は持ち越された．日本としては，従来のaあるいは改革案bでも同じ会費となり差はない．

IFIPの今後の財務や運営に持続性を持たせるために，メンバ資格や登録費用分担の構造改革は，Strous前会長の6年在職中の積年の課題であった．投票へ行く過程も段階を踏んでいたとする前会長側の意思に反し，多くの国代表は，それぞれの国で十分に検討がされずに投票となった感が強い．1年に1回の総会で意思決定を行う現在のIFIPの在り方では，なかなかこのような改革は進む速度が遅い．

この会費の件では，2015年度の総会で結成されたメンバ学会の組織，Member Societies Assembly（MSA）が，会費を支払う代表学会の利害にかかわる大きな勢力となりつつある．

役員の選出

今回でStrous会長が退任し，2015年に次期会長に選出されたMichael Hinchey新会長（アイルランド）が就任した．なお，Strous前会長はもう1年役員会のメンバとしてとどまる．

このほか，役員選挙では，Vice Presidentの1期目が終了したMax Bramer教授(英国)が2期目について再選された．また，退任されるVice PresidentのRamon Puigjaner教授（スペイン）の代わりとして，今回コスタリカのWITFOR 2016組織委員長を務めたGabriela Marin-Raventos教授（中米の組織CLEI：Centro Latinoamericano de Estudios Informatica）が選出された．さらに，財務の役員，Declan Brady氏（アイルランド）が2期目の再選を果たした．一方，カウンシラー（Councillor）については，Franz Rammig氏（ドイツ），Michael Goedicke教授(ドイツ，TA☆1選出役員)，Anthony Wong氏（オーストラリア，IP 3選出役員）が2期目の再選のほか，新たにMaria Raffai教授（ハンガリー）および韓国の新代表のJee In Kim教授（韓国）が選出された．なお，Kim教授は，韓国で開催されたWCC 2015の組織委員長で元IFIP Vice Presidentも経験されたDong-Yoon Kim教授から引き継いで，今回の総会に新代表として参加した．これでアジア圏からの役員が，2015年度選出されたYasas Abeywickrama氏（スリランカ）と村山とともに3名(役員総数は16名)となった．

規則の改正

授賞関連については，Award委員会でこれまでのIFIP内部の賞の授賞の基準等を明確にする作業を進めていた．それに伴い，規則改正が行われた．さらに，各技術委員会やドメイン委員会が推薦できるIFIPフェロー制度を設け，技術分野で顕著な功績を遺したIFIP内の技術委員会やワーキンググループ等の各組織に属するメンバに与えることとした．

☆1 TA（TechnicalAssembly）：技術委員会の集まり．

出版関連

IFIP 電子図書館は，フランス国立情報学自動制御研究所（INRIA）が構築を進めている．現在，国際会議プロシーディングス等の過去のもの（まずは，メタデータの形式が変更になった 2014 年のプロシーディングスから）が閲覧可能である．最近の会議については，その会議開催日の前後 2 週間アクセスできる．

一方，ネットワークの技術委員会（TC 6）主査の Aiko Pras 教授（オランダ）も，TC 6 関連の会議のプロシーディングスを載せた電子図書館を構築している．ただし，これはあくまでもボランティアで行われているため，IFIP では，専任の管理者が確保できる電子図書館が必要であった．現在の IFIP 電子図書館には，これら TC 6 関連のプロシーディングスも掲載しており無料で閲覧できる．なお，SpringerLink では，出版後 4 年経つ IFIP 系の資料は無料でアクセスできるようにしている．IFIP の電子図書館では，発表後 3 年経った論文については，著者の最終バージョンを電子図書館に載せ，無料でアクセスできるようにしている．

いずれにせよ，IFIP 電子図書館は過渡期にあり，今後の動向が注目される．ジャーナルの論文についても，無料でアクセスできるよう，現在 Springer と交渉中である．

WCC について

WCC については，ここ数年，開催しない方向の意見が強かった．これに対し，2015 年に開催した韓国での WCC についての報告に続き，ポーランド代表でカウンシラーの Jerzy Nawrocki 教授（ポズナン工科大学）より，もう少しコンパクトにして技術委員会（TC や WG）とともに協力して開催するような新たな形式の WCC を 2018 年にポズナンで開催する予定であると報告があった．

その他

- これまで開発途上国の博士課程の学生の旅費の支援等を行う委員会，Developing Countries Support Committee（DCSC）と，WCC で開催された Digital Equity のワークショップは，どちらも前 Vice President の Ramon Puigjaner 教授が推進してきた活動で，それらを統合し，Digital Equity 委員会として発足した．WITFOR 2016 でもこのセッションが設けられた．
- Strous 前会長がカウンシラーの Michael Goedicke 教授とともに，ほかの国連機関等との連携を目指す委員会，International Liaison Committee（ILC）を設立した．
- このほか，ある特定の研究開発領域について動向調査などを行う委員会（Domain Committee）について，今回新たに IoT（Internet of Things）の委員会が Strous 前会長から提案された．

今後の会議

2017 年度の総会は，スリランカで 2017 年 9 月 11 日～ 13 日に開催予定である．それに先立ち，役員会がウクライナのキエフで 2017 年 3 月 9 日～ 11 日まで開催される．

総会の前に開催された WITFOR 2017 は，開発途上国で開催されてきた会議である．今回初めて参加したが，大変興味深い内容であった．Digital Equity のように，国際連合の掲げる持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）がどの発表でも冒頭に議論されていた．本会の研究発表では，目の前の目的は提示されるが，このようなグローバルな問題意識は検討されることはほとんどない．情報処理分野でも新しい災害情報処理のような学際的な研究課題では，こうした目標を目指すことも可能であろう．今後，本会のかかわる領域も，新たな視点として SDGs にどの程度寄与するかの検討も必要と感じた．

参考文献

1）齊藤忠夫：IFIP ―情報処理国際連合―近況報告，情報処理，Vol.55, No.3, pp.292-294（Mar. 2014）．

TC 1(Foundations of Computer Science)

代表：小林直樹（東京大学）

TC 1 は理論計算機科学に関する TC であり，TC 1 チェアは Sakarovitch 氏（フランス）が務めている．昨年報告済みの 2015 年 7 月 10 日の会議以降，TC 1 会議は開かれていない．WG 主催のイベントとしては，WG 1.5 主催の国際ワークショップ Automata 2016（スイス，6 月），WG 1.6 主催の書き換えシステムに関する研究集会（ポルトガル，6 月）などが開催された．

TC 2 (Software : Theory and Practice)

代表：胡　振江（国立情報学研究所）

2016 年度の TC 2 Meeting は，STAF 2016（Software Technologies : Applications and Foundations）会議中，7 月 6 日にウィーンにて開催された．今回は都合により残念ながら参加できなかったが，全体の参加者も 13 名と 2015 年度よりやや少なかった．主な内容は次の通りである．(1) 各 WG のメンバに関して議論し，新しい WG チェアとして WG 2.7 : Jose Creissac Campos（Universidade do Minho），WG 2.9 : Jane Cleland-Huang（DePaul University），WG 2.15 : Jean-Christophe Filliatre（CNRS, LRI, Universite Paris-Sud）が承認された．また，25 名の新しい WG メンバと 7 名の名誉メンバが承認され，27 名が除名された．(2) IFIP Award は，Kevin Ryan（WG 2.9）と Lambert Meertens（WG 2.1）に 2015 年度 Outstanding Service Award を授与した．また，2015 年は Manfred Paul Award の受賞者はなかったが，2016 年に開催された重要な国際会議から推薦することに決定した．(3) 各 WG の運営状況に関して議論した．現在 16 ある WG のほとんどは順調に活動しているが，WG 2.12（Web Semantics）と WG 2.14（Service-Oriented Systems）はあまり活動していない状況である．なお，TC 2 の Web サイトは https://ifip-tc2.paluno.uni-due.de/ である．

TC 3 (Education)

代表：斎藤俊則（日本教育大学院大学）

2016 年の TC 3 イベントは IFIP TC 3 Joint Conference : Stakeholders and Information Technology in Education（7 月 6 日～ 8 日，ギマランイス市，ポルトガル）であった．このカンファレンスでは ‘ 学校教育における ICT と情報学 ’ などをテーマに各国から 65 名の参加者が集い研究発表とディスカッションが行われた．

会期後には同じ会場で TC 3 定例会議（7 月 8 日～ 9 日）が開催された．この会議では活動報告に加えてイベント開催予定や今後の展望が議論された．イベントに関しては WCCE 2017（World Conference on Computers in Education, 2017 年 7 月 3 日～ 6 日，ダブリン市）および 2018 年度の TC 3 カンファレンス（リンツ，オーストリア）の準備状況，ならびに CS/Informatics カリキュラムモデル策定について報告が行われた．また SDGs（Sustainable Development Goals）に関する UNESCO との連携についての展望が示された．

TC 5 (Information Technology Applications)

代表：中野　冠（慶應義塾大学）

年初に議長の改選があり，ポーランド代表の Prof. Tadeusz Czachorski が議長となった．2016 年度の TC 5 会議(第 58 回) は，10 月 1 日フランス ストラスブルグの INSA（理工科大学）で行われた．日本代表の中野は出席していない．議長交代後，議事録などの情報が来なくなったので状況はよく分からない．

TC 5 の中で，最も活発なグループは WG 5.7（Advanced Production Management System）で日本人が毎年 20 人以上参加する．2016 年度も 9 月 3 日～ 7 日までブラジルのイグアスで開かれたが，ジカ熱の影響もあって日本人参加者は 3 人だけだった（国際会議参加者合計約 180 人）．2017 年度は，ドイツのハンブルクで 9 月 2 日～ 9 月 6 日で行われる．日本人参加者数が以前に戻ることを期待したい．

TC 6 (Communication Systems)

代表：相田　仁（東京大学）

2016 年度 TC 6 の第 1 回会合は 5 月 19 日～ 20 日にオーストリアのウィーンで開催された．会合ではかなりの時間を使って IEEE や ACM と比べた IFIP の位置

づけについて議論された．その中では，IEEE が事実上独占しているディジタルライブラリなどを活用する一方で，IEEE が国際会議の Technical Co-sponsorship に 1,350 米ドル課すビジネスモデルになっているのに対して，IFIP は学生や年長者，国の代表などが参加しやすい非営利主義を貫くべき，といった意見が出された．そのほか，オープンディジタルライブラリや Transaction の発行，MOOC（Massive Open Online Course）などについて意見が交換された．10 月 24 日～ 25 日にスイスのチューリッヒで第 2 回会合が予定されていたが，議長の都合が悪くなったため，キャンセルされた．

TC 7（System Modelling and Optimization）

代表：亀田壽夫（筑波大学）

TC 7 Conference および TC 7 Meeting は隔年に開催されるが，2016 年はその開催年でなく，第 28 回の TC 7 Conference が，2017 年 7 月 17 日～ 21 日に，トルコ共和国の Ankara で開催される予定である．その運営について，PC メンバの間で Email によって，かなりの議論が行われてきている．議論が重ねられ plenary speaker の候補が挙げられている段階である．方向が決定されれば順次交渉が行われ最終的に 10 名程度が決まることになる．以前からの傾向のように会議全体が多くのミニシンポジウムで構成される方向で進んでいる．外部からのミニシンポジウム提案や一般発表も募集される．トルコの政治情勢悪化に懸念が持たれているが，開催の方向で現在進行している．次の第 29 回の TC 7 Conference に対して，Quito，Ecuador 開催の提案があったが，多くの賛成が得られず，却下された．Ankara の会議中に協議される予定である．

傘下の WG については，TC 7 委員会は，その設立・改廃の際にかかわるのみであり，各 WG はほぼ独立に各々の活動を続けている．会議期間中に行われる TC 7 Meeting において各 WG の活動の報告が行われるが，TC 7 Conference や TC 7 委員会へのかかわりに対する積極さにも，各 WG の間に違いがあるようである．

TC 8（Information Systems）

代表：内木哲也（埼玉大学）

TC 8 は組織および社会の活動基盤である情報システム（Information Systems）の計画立案から，分析設計，開発，運用管理，利用評価，社会変革をも含む，人間－技術システムのマネジメント活動全般を対象としている．2016 年は第 47 回となる TC 8 年次総会が 8 月 2 日～ 3 日にノルウェー王国オスロにある Dataforeningen（ノルウェー情報処理学会）本部会議室において 9 カ国の代表委員と 2WG 代表委員の 12 名により開催された．主要な議題は，この数年継続審議となっている TC 8 の社会貢献事業である国際会議評価基準の策定と途上国の若手研究者育成について進捗状況が報告され，次年度以降の実施方策について審議した．また，AIS（国際情報システム学会）との関係構築についても進捗状況が報告され，継続的に推進することが承認された．また，Industrial Information System に関する新たな WG（WG 8.12）についての提案があり，審議の末，全会一致で開設の上申を承認した．2017 年は ECIS（European Colloid and Interface Society）に合わせ 6 月上旬にポルトガル共和国 Guimarães で，2018 年は WCC 2018 に合わせポーランド共和国 Poznań で開催する予定である．

TC 9（ICT and Society）

代表：小向太郎（日本大学）

TC 9 の 2016 年度の Business Meeting は，TC 9 主催の HCC12（Human Choice and Computers Conference）に合わせて，9 月 7 日に英国マンチェスター近郊のサルフォードで行われた．運営方針に関する議論と，各 WG の活動状況ならびに今後の方向付けに関して議論があった．TC 9 では，活発に活動をしている WG がある一方で，活動が休止してしまっているものも散見されるため，WG テーマ設定の見直しと WG の再編の在り方について意見が交換された．次回の HCC13 は 2018 年にポーランドのポズナンで行うことが予定されているため，その時期を目処に具体的な方針を策定することとなった．

TC 10 (Computer Systems Technology)

代表：金川信康（日立製作所）

TC 10 はコンピュータシステムの技術，すなわち各階層における設計・評価技術とその概念，方法論，ツールに関する情報交換と協調促進を目的としている．執行部は 2013 年より Chair: Ricardo Reis（ブラジル代表），Secretary : Paolo Prinetto（イタリア代表）以下 21 名のメンバから構成されている．

TC 10 は 10.2 – Embedded Systems，10.3 – Concurrent Systems，10.4 - Dependable Computing and Fault Tolerance，10.5 - Design and Engineering of Electronic Systems の 4 つの WG より構成されている．

WG 10.2 は 58 名のメンバにより構成されているが日本からの参加がないことが今後の課題である．

WG 10.3 のメンバは 53 名で，日本からは 4 名参加している．本会ではシステムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会が分野としては関連している．

WG 10.4 は 55 名のメンバからなり，日本から 5 名参加している．このほかに 18 名（うち 3 名は日本国籍）の名誉メンバがいる．電子情報通信学会のディペンダブルコンピューティング研究会が連携している．本会ではコンピュータセキュリティ研究会が分野として関連しており，実質的な連携活動の可能性について話し合っている．

WG 10.5 は 40 名のメンバに加えて 10 名の名誉メンバを擁し，日本からは 3 名のメンバと 1 名の名誉メンバが参加している．本会ではシステムと LSI の設計技術研究会が活発に連携している．

TC 11 (Security and Privacy Protection in Information Processing Systems)

代表：村山優子（津田塾大学）

TC 11 は情報セキュリティに関連する分野を取り扱う TC である．TC 11 の活動は全体活動とワーキング・グループ（WG）活動に分かれており，全体活動では TC 11 の運営を決める Annual Meeting と国際会議 SEC（International Information Security Conference）を開催している．WG 活動では各 WG が国際会議やワークショップ等を開いている．

SEC 2016 は，31 回目となり，2016 年 5 月 30 日～ 6 月 1 日の 3 日間，ベルギーの Ghent で開催された．今回は，TC 11 Vice-Chair の 1 人，ルーヴェン・カトリック大学（KU Leuven）の Bart De Decker 教授が組織委員長（General Chair）となり開催された．プログラム委員長は，Stefan Katzenbeisser 教授（ドイツのダルムシュタット工科大学）と，TC 11 のオランダ代表の Jaap-Henk Hoepman 教授（ラドバウド大学），実行委員長は，ルーヴェン・カトリック大学の Vincent Naessens 准教授であった．

例年通り，SEC 2016 に先立ち 5 月 29 日に TC 11 の年次委員会が開催された．会議は，朝 9 時から午後 6 時過ぎまで開催された．SEC 会議の内容や運営についての議論や WG 報告等が行われた．今回は，新たな Chair を選出する必要があった．村山がこの委員会の Chair を 1 期（3 年）務めた．従来，Chair は 2 期務めるが，一昨年より村山が IFIP の副会長となったことから仕事量軽減のため，1 期で TC Chair を退任することとした．新 Chair として，英国代表の Steven Furnell 教授（プリマス大学）が全員一致で選出された．

SEC 2017 は，TC 11 メンバ（WG 11.14 Chair）の Fabio Martinelli 博士（イタリア学術研究会議 CNR）が中心となり，イタリアのローマにて 2017 年 5 月 29 日～ 31 日に開催される．SEC 2018 は，新たな形式でポーランドのポズナンで開催が予定されている世界コンピュータ会議（WCC）の場で開催することとした．日程は 2018 年 9 月 17 日の週の予定である．

TC 11 では，現在 14 の WG が活動している．

TC 12 (Artificial Intelligence)

代表：栗原　聡（電気通信大学）

TC 12 は 1989 年に設立され，現在，Ulrich Furbach 教授（コブレンツ＝ランダウ大学，ドイツ）が議長を務めている．AI（人工知能）全般をカバーしており，現在 33 カ国が参加し，Knowledge Representation and Reasoning, Machine Learning and Data Mining，Intelligent Agents, Web Semantics，Artificial Intelligence Applications, Knowledge Management，Social Networking Semantics and Collective Intelligence，Intelligent Bioinformatics and Biomedical Systems，Computational Intelligence の 9 つの WG が運営されている．

TC 13 (Human-Computer Interaction)

代表：北村喜文（東北大学）

TC 13 の 2016 年の第 1 回目の会議（#41）が 3 月 11 日～ 12 日に英国の London で開催された．ここで，スウェーデンの Jan Gulliksen に代わる新しい TC 13 の Chair として，フランスの Philippe Palanque 教授（Toulouse 3 大学）が選挙により選ばれた．TC 13 主催の国際会議 INTERACT（International Conference on Human-Computer Interaction）は 2 年ごとに開催されてきており，2015 年は 9 月 14 日～ 18 日にドイツの Bamberg で開催され，次回は，2017 年 9 月 25 日～ 29 日にインドの Bombay で開催される．その運営の引継ぎなどには，これまで TC 13 のメンバ全員がかかわってきたが，時流に合わせた改革を効率的かつ確実に行うため，またその質を上げるために Steering Committee を設置することもこの会議で決まり，その運用のためのガイドラインを策定する作業を始めることとなった．

次回の会議(#42)は，2017 年 3 月 23 日～ 24 日にフランスの Paris で，INTERACT 2017 の PC 会議に合わせて開催される予定である．

TC 14 (Entertainment Computing)

代表：星野准一（筑波大学）

TC 14 は，2002 年 SG 16（Specialist Group on Entertainment Computing，議長：中津良平氏）として出発し，設立以来 5 年が経過した 2006 年 8 月にチリ，サンチャゴで行われた IFIP 総会において，TC への昇格が認められ，TC 14 として活動を開始することとなった．中津氏の議長の任期が終了したので，2012 年度に 2002 年より副議長を務めていた Matthias Rauberberg 氏（オランダ）が議長に選出された．副議長は Paolo Ciancarini 氏（イタリア）であり，中津良平氏は WG 14.3 の議長を務めている．

今年度 1 年間の TC 14 の構成員の変更・主たる活動は以下の通りである．

(1) TC 14 の主催する国際会議 ICEC 2016（International Conference on Entertainment Computing）を開催した．

(2) 2016 年 9 月時点で TC 14 の国際委員の数は 46 名，WG の数は 9 である．

(3) WG 14.1 Digital Storytelling の議長として星野准一が選ばれた．

IP 3 (International Professional Practice Partnership)

代表：芝田　晃（三菱電機）

IP 3 は，各国の高度 IT 人材資格制度を認定することにより，世界の IT 専門家の強化に資することを目的としている．本会は，IP 3 の活動が認定情報技術者(CITP) 制度の確立に有意義と考え，2009 年 6 月より参加し，ボード・メンバを務めている．参加団体は，オーストラリア ACS（議長），南アフリカ共和国 IITPSA（副議長），カナダ CIPS，日本 IPSJ，ニュージーランド IITPNZ，ジンバブエ CSZ，韓国 KIISE，エジプト ITI，スリランカ CSSL，オランダ NGI/VRI，スイス SI の 11 学会と，IIBA，ISACA の 2 協会である．IP 3 は，World Summit on the Information Society（WSIS）2016 や，国連総会ハイレベル会合 WSIS+10 Review にて講演を行うなど，IT のプロフェッショナリズムの重要性のアピールを続けている．

本会は，1 ～ 2 カ月ごとに開催される電話会議による理事会への出席に加え，face-to-face での活動計画検討会，年次総会，およびボード・ミーティングに出席した．ここでの成果の 1 つとして，IP 3 は，iDOCED（IFIP Duty of Care for Everything Digital）initiative を発表した（IFIP NEWS のサイト http://www.ifipnews.org/ に掲載）．これは，生活のあらゆる場面で IoT や AI の技術が使われるようになるにあたり，その信頼性と安全性を確保するために，ベンダやユーザに注意義務（Duty of Care）の必要性を説くものである．特に，ICT の専門家には，製品やサービスがユーザや社会のニーズの的を射る（HIT the mark）ように，信義（Honor），誠実（Integrity），信頼（Trust）を含む注意義務を怠らないように訴えている．また，IP 3 の認定制度の根拠となっており，本会よりコ・エディタとコンビーナを出している ISO/IEC 24773（ソフトウェア技術者認証）改訂作業の状況についても，適宜，情報共有を行っている．

TC 1 : Foundations of Computer Science

WG 1.2 Descriptional Complexity
WG 1.3 Foundations of System Specification
WG 1.5 Cellular Automata and Discrete Complex Systems
WG 1.6 Term Rewriting
WG 1.7 Theoretical Foundations of Security Analysis and Design
WG 1.8 Concurrency Theory
WG 1.9 Verified Software (joint with WG 2.15)
WG 1.10 String Algorithmics & Applications

TC 2 : Software : Theory and Practice

WG 2.1 Algorithmic Languages and Calculi
WG 2.2 Formal Description of Programming Concepts
WG 2.3 Programming Methodology
WG 2.4 Software Implementation Technology
WG 2.5 Numerical Software
WG 2.6 Database
WG 2.7 User Interface Engineering (joint with WG 13.4)
WG 2.8 Functional Programming
WG 2.9 Software Requirements Engineering
WG 2.10 Software Architecture
WG 2.11 Program Generation
WG 2.12 Web Semantics (joint with WG 12.4)
WG 2.13 Open Source Software
WG 2.14 Service-Oriented Systems (joint with WG 6.12/8.10)
WG 2.15 Verified Software (joint with WG 1.9)
WG 2.16 Programming Language Design

TC 3 : Education

WG 3.1 Informatics and digital technologies in School Education
WG 3.3 Research into Educational Applications of Information Technologies
WG 3.4 Professional and Vocational Education in ICT
WG 3.7 Information Technology in Educational Management

TC 5 : Information Technology Applications

WG 5.1 Information Technology in the Product Realization Process
WG 5.4 Computer Aided Innovation
WG 5.5 Cooperation infrastructure for Virtual Enterprises and electronic business (COVE)
WG 5.7 Advances in Production Management Systems
WG 5.8 Enterprise Interoperability
WG 5.10 Computer Graphics and Virtual Worlds
WG 5.11 Computers and Environment
WG 5.12 Architectures for Enterprise Integration
WG 5.13 Bioinformatics and its Applications
WG 5.14 Advanced Information Processing for Agriculture

TC 6 : Communication Systems

WG 6.1 Architectures and Protocols for Distributed Systems
WG 6.2 Network and Internetwork Architectures
WG 6.3 Performance of Communication Systems
WG 6.6 Management of Networks and Distributed Systems
WG 6.8 Mobile and Wireless Communications
WG 6.9 Communication Systems in Developing Countries
WG 6.10 Photonic Networking
WG 6.11 Communication aspects of the e-World
WG 6.12 Service-Oriented Systems (joint with WG 8.10/2.14)

TC 7 : System Modelling and Optimization

WG 7.1 Modeling and Simulation
WG 7.2 Computational Techniques in Distributed Systems
WG 7.3 Computer System Modeling
WG 7.4 Inverse Problems and Imaging
WG 7.5 Reliability and Optimization of Structural Systems
WG 7.6 Optimization - Based Computer Aided Modeling and Design
WG 7.7 Stochastic Optimization

TC 8 : Information Systems

WG 8.1 Design and Evaluation of Information Systems
WG 8.2 The Interaction of Information Systems and the Organization
WG 8.3 Decision Support Systems
WG 8.4 E-Business Information Systems: Multi-disciplinary research and practice
WG 8.5 Information Systems in Public Administration
WG 8.6 Transfer and Diffusion of Information Technology
WG 8.9 Enterprise Information Systems
WG 8.10 Service-Oriented Systems (joint with WG 6.12/2.14)
WG 8.11 Information Systems Security Research (joint with WG 11.13)

TC 9 : ICT and Society

WG 9.1 Computers and Work
WG 9.2 Social Accountability and Computing
SIG 9.2.2 Special Interest Group on Framework on Ethics of Computing
WG 9.3 Home Oriented Informatics and Telematics
WG 9.4 Social Implications of Computers in Developing Countries
WG 9.5 Virtuality and Society
WG 9.6 Information Technology: Misuse and The Law (joint with WG 11.7)
WG 9.7 History of Computing
WG 9.8 Gender Diversity and ICT
WG 9.9 ICT and Sustainable Development
WG 9.10 ICT Uses in Peace and War

TC 10 : Computer Systems Technology

WG 10.2 Embedded Systems
WG 10.3 Concurrent Systems
WG 10.4 Dependable Computing and Fault Tolerance
WG 10.5 Design and Engineering of Electronic Systems

TC 11 : Security and Privacy Protection in Information Processing Systems

WG 11.1 Information Security Management
WG 11.2 Pervasive Systems Security
WG 11.3 Data and Application Security and Privacy
WG 11.4 Network & Distributed Systems Security
WG 11.5 IT Assurance and Audit
WG 11.6 Identity Management
WG 11.7 Information Technology: Misuse and The Law (joint with WG 9.6)
WG 11.8 Information Security Education
WG 11.9 Digital Forensics
WG 11.10 Critical Infrastructure Protection
WG 11.11 Trust Management
WG 11.12 Human Aspects of Information Security and Assurance
WG 11.13 Information Systems Security Research (joint with WG 8.11)
WG 11.14 Secure Engineering

TC 12 : Artificial Intelligence

WG 12.1 Knowledge Representation and Reasoning
WG 12.2 Machine Learning and Data Mining
WG 12.3 Intelligent Agents
WG 12.4 Web Semantics（joint with WG 2.12）
WG 12.5 Artificial Intelligence Applications
WG 12.6 Knowledge Management
WG 12.7 Social Networking Semantics and Collective Intelligence
WG 12.8 Intelligent Bioinformatics and Biomedical Systems
WG 12.9 Computational Intelligence

TC 13 : Human-Computer Interaction

WG 13.1 Education in HCI and HCI Curricula
WG 13.2 Methodology for User-Centered System Design
WG 13.3 Human-Computer Interaction and Disability
WG 13.4 User Interface Engineering (joint with WG 2.7)
WG 13.5 Resilience, Reliability, Safety and Human Error in System Development
WG 13.6 Human-Work Interaction Design
WG 13.7 Human - Computer Interaction & Visualization (HCIV)
WG 13.8 Interaction Design and International Development
WG 13.9 Interaction Design and Children
WG 13.10 Human-Centred Technology for Sustainability

TC 14 : Entertainment Computing

WG 14.1 Digital Storytelling
WG 14.2 Entertainment Robot
WG 14.3 Theoretical Basis of Entertainment
WG 14.4 Entertainment Games
WG 14.5 Social and Ethical Issues in Entertainment Computing
WG 14.6 Interactive TeleVision
WG 14.7 Art and Entertainment
WG 14.8 Serious Games
WG 14.9 Game Accessibility

訂　正

本誌 58 巻 3 号（2017 年 3 月号）の学会活動報告「IFIP ―情報処理国際連合―近況報告」に一部誤りがありました．お詫びして訂正いたします．

P.232　右段 18 行目

（誤）ECIS（European Colloid and Interface Society）

（正）ECIS（European Conference on Information Systems）